

京都大学研究戦略タスクフォース プログラムディレクターからのアドバイス

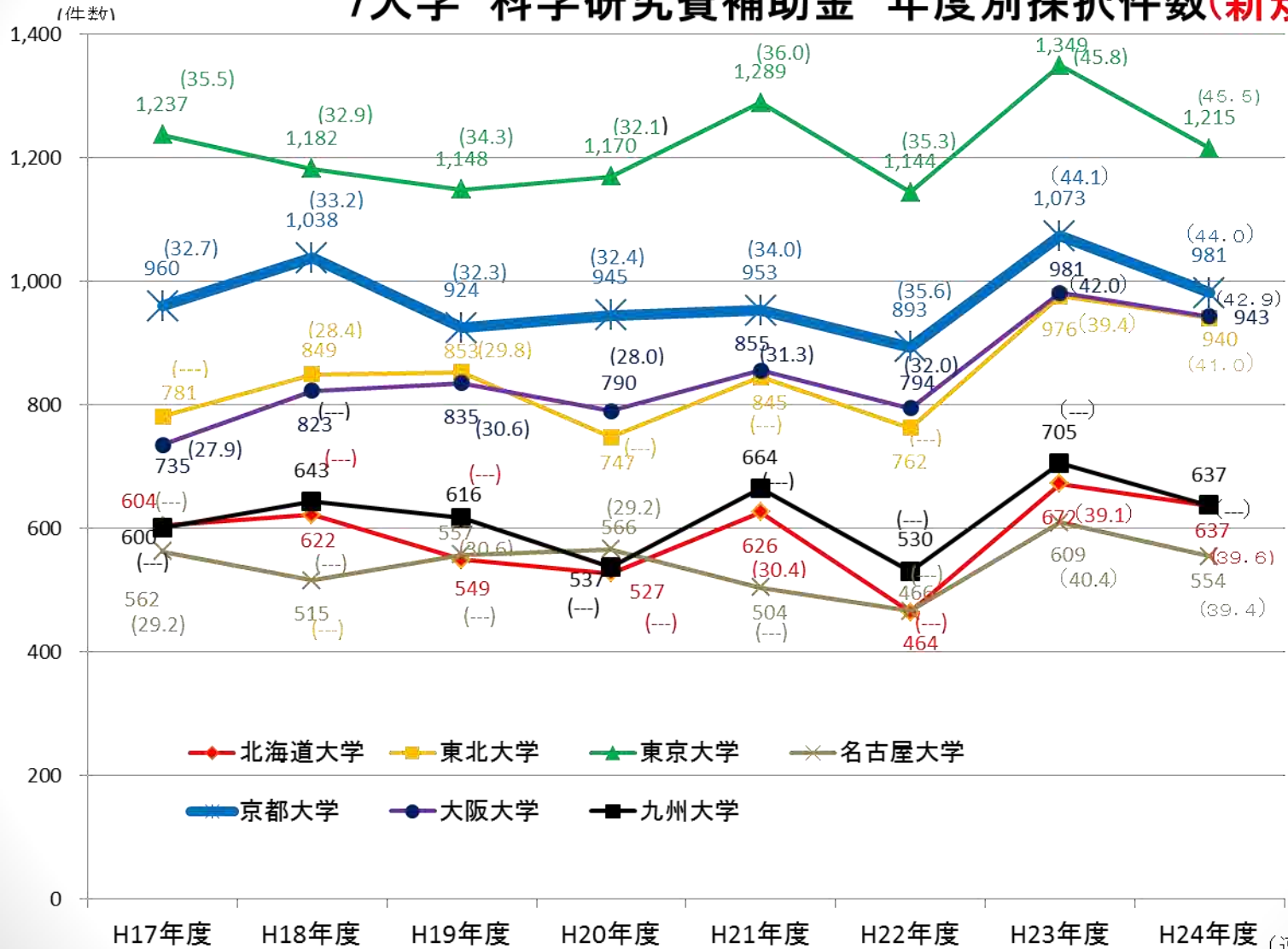
京都大学研究国際部 学術研究支援室
田中 耕司

2013年3月21日
京都大学工学研究科 総合研究3号館

今日、お伝えしたいこと

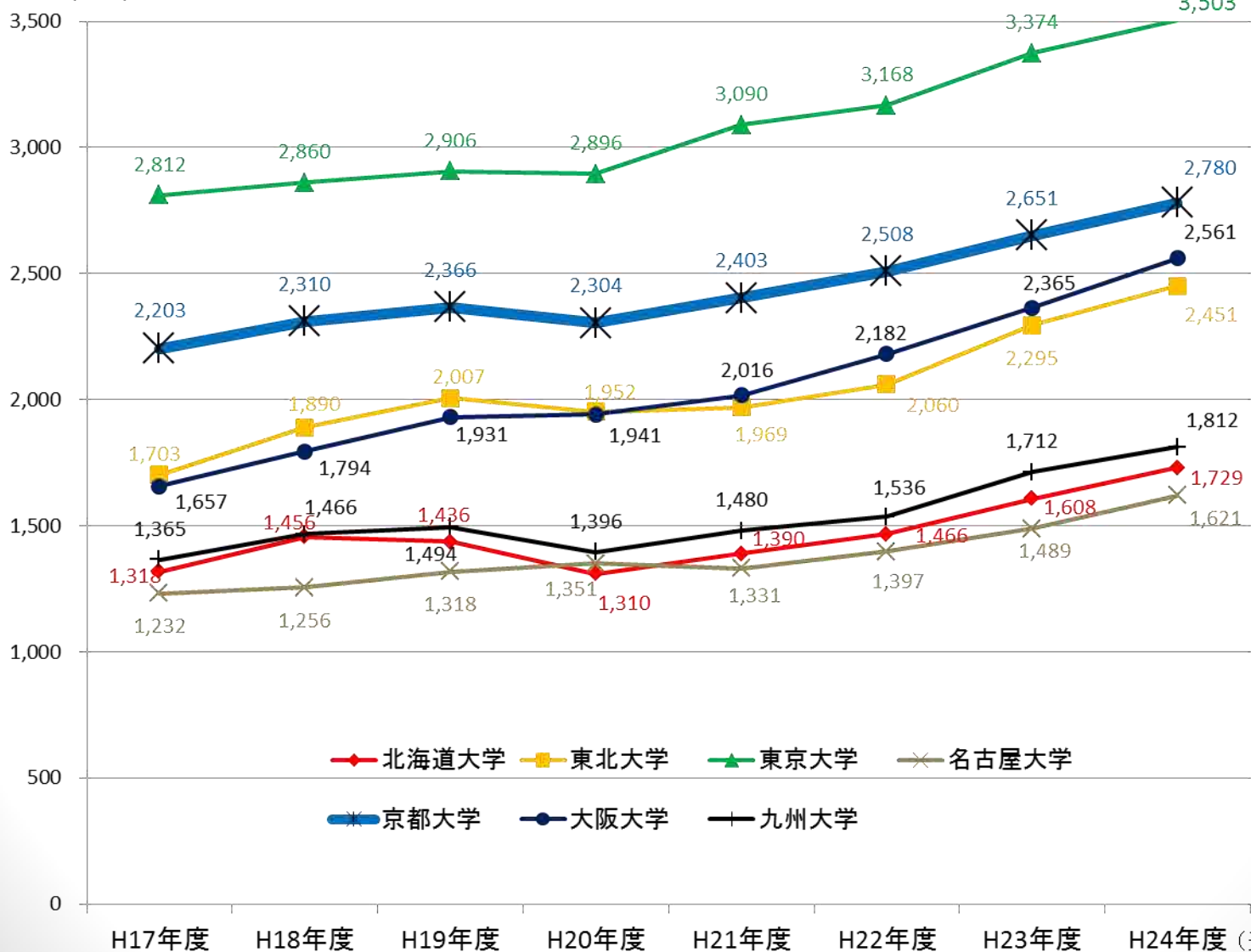
1. プログラムディレクターとしてのアドバイス
 - ・科学研究費補助金、特別研究員制度など若手研究者の研究活動を支える外部資金獲得に向けて
2. 京都大学におけるリサーチアドミニストレーション制度（URA室の設置）の紹介
 - ・リサーチアドミニストレーター（URA）とは
 - ・URA／URA制度と若手研究者

7大学 科学研究費補助金 年度別採択件数(新規)



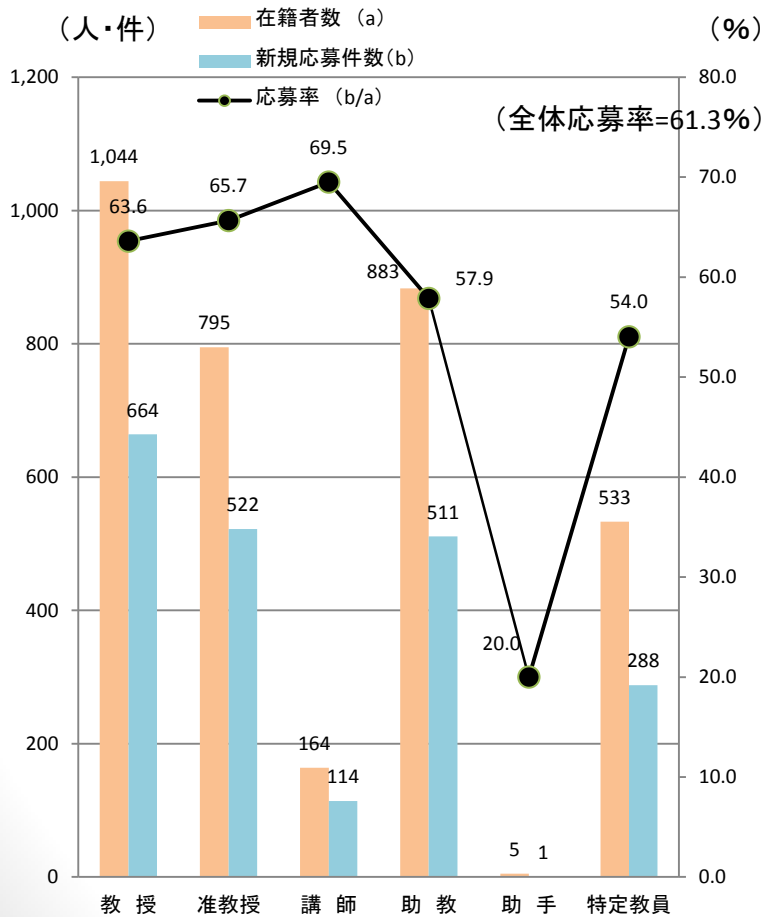
注) ()内数値は採択率(%)
但し、数値の記載なし(---)は、採択率の上位30機関に入っていないため、採択率不明

7大学 科学研究費補助金 年度別採択件数(新規+継続)

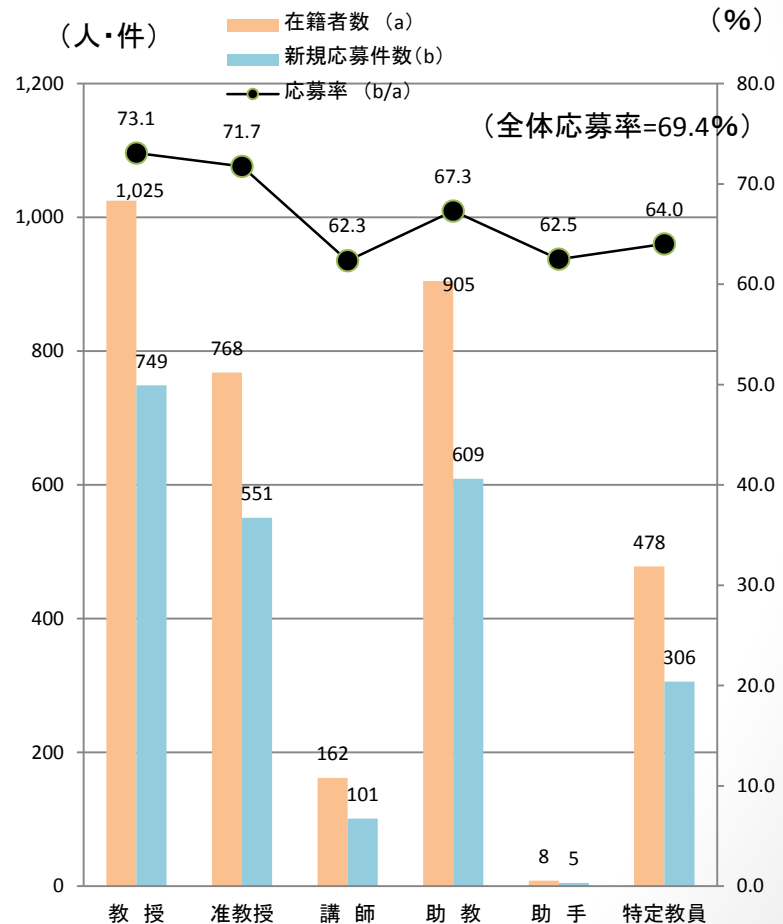


平成24年度/平成23年度 文科省科学研究費補助金新規応募状況 (職種別)

○平成24年度



○平成23年度



プログラムディレクターとしてのアドバイス

申請者は申請書を1つ書くだけ



審査委員はたくさんの申請書を読まねばならない



では、どうするか

1. 最初のページを見たときの印象が大事
→審査員の注意を引く(「読みやすそう」という印象が大事)
2. 文章・表現が平易で読みやすいこと
→何度も読む。他人に読んでもらう。誤字・脱字は論外
→一度書き上げてから、時間を十分において書き直す
3. 図表をうまく使う
4. 参考文献・業績リストなどを標準的な様式で見やすく配置する
5. 経費の積算を丁寧に積み上げているという印象を与える
6. 「記入要領」をよく読む
7. 自分の研究のためではなく、視野を広げて書くこと
→同じ分野の他の研究者との競争であると同時に、
審査委員は、この資金を助成することによって、申請者はFAの期待に応えてくれるかという尺度でも申請書を読む。その気持ちで申請書を書く。

URA室からのアドバイス —よい「研究計画調書」を書くために—

申請者は申請書を1つ書いただけ



審査委員はたくさんの申請書を読まねばならない

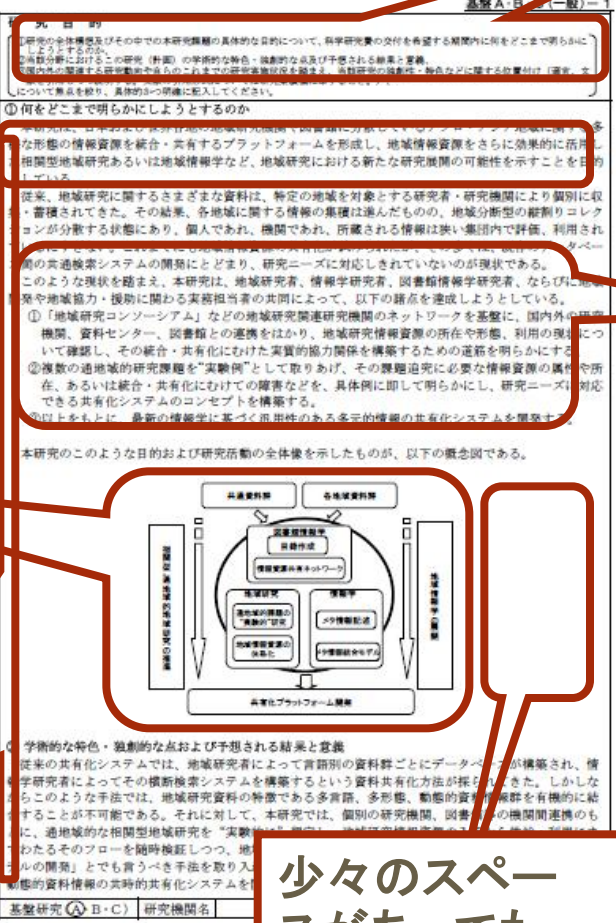


では、どうするか

URA室が発行した「教科書」がきっと助けになるでしょう



最初の書き出しで、明確に研究の目的を述べる。しかも、長くない文章で。



記述内容についての指示を忠実に守った記述となっているかを確かめる

文章は平易に、内容は高度に。行間をつめすぎない。

図表を活用する

枠いっぱい文字をつめず、インデントを入れて空白部分をつくる(上下左右とも)。

少々スペースがあっても読み手には親切

適宜、改行し段落を短くする。見出しや箇条書きを導入してポイントを見やすく、かつ強調する。強調部分はゴシック体を使用するなどの工夫も大事

審査委員は申請者の
専門分野を理解している
わけではない

審査委員はたくさんの申請
書類をできるだけ早く終え
たいという気持ちで読む

可読性を高める

理解しやすい表現
に努める

評価しやすいよう
審査員を誘導する

「研究目的」の Before

様式S-1-8 研究目的フォーム（論文タイプ用）

基礎C（一般）-1

研究目的

研究目的（概要）

研究目的（研究）

①近年、日本の大学において、研究者が複雑な業務から開放し、研究に専念できるように URA システムの導入が進められ、普及しつつある。URA システムを導入した大学から様々な成果が報告されており、特に京都大学で著実に成果があげられている。文部科学省によって我が国に導入促進の URA システムが導入された 2011 年以降は、日本と米国の大手大学・研究機関の違いもあり、URA システムがうまく機能・定着するが課題的であった。しかし、A 大学では、大型プロジェクトにおいて優れた事例を報告し、B 大学は、人件費削減の観点から導入を促された。C 大学では、

URATって何？審査委員は専門の外人とは限らない...

見出しがないので、何について言っているが分からない...

ベースのフォントにゴシック体を用いるため、可読性が低い。読頭も目立たない...

図1 A大学の導入と研究推進体制の課題

一般論や他の研究者の研究についてばかり書かれている。応募者の研究状況が知りたいのに...

「研究目的」の After

様式S-1-8 研究目的フォーム（論文タイプの提出）

基礎C（一般）-1

研究目的

研究目的（概要）

研究目的（研究）

JURA に関する影印を加えました

審査委員が評価しやすいように見出しを付けました

これまでの研究成果を詳しく、かつ学術的貢献を説明しつつ研究遂行能力もより詳しくアピールしました

図1 大学の長年にわたる研究の歴史

図2 A大学の長年にわたる研究の歴史

図3 A大学の長年にわたる研究の歴史

図4 A大学の長年にわたる研究の歴史

図5 A大学の長年にわたる研究の歴史

図6 A大学の長年にわたる研究の歴史

図7 A大学の長年にわたる研究の歴史

図8 A大学の長年にわたる研究の歴史

図9 A大学の長年にわたる研究の歴史

図10 A大学の長年にわたる研究の歴史

図11 A大学の長年にわたる研究の歴史

図12 A大学の長年にわたる研究の歴史

図13 A大学の長年にわたる研究の歴史

図14 A大学の長年にわたる研究の歴史

図15 A大学の長年にわたる研究の歴史

図16 A大学の長年にわたる研究の歴史

図17 A大学の長年にわたる研究の歴史

図18 A大学の長年にわたる研究の歴史

図19 A大学の長年にわたる研究の歴史

図20 A大学の長年にわたる研究の歴史

図21 A大学の長年にわたる研究の歴史

図22 A大学の長年にわたる研究の歴史

図23 A大学の長年にわたる研究の歴史

図24 A大学の長年にわたる研究の歴史

図25 A大学の長年にわたる研究の歴史

図26 A大学の長年にわたる研究の歴史

図27 A大学の長年にわたる研究の歴史

図28 A大学の長年にわたる研究の歴史

図29 A大学の長年にわたる研究の歴史

図30 A大学の長年にわたる研究の歴史

図31 A大学の長年にわたる研究の歴史

図32 A大学の長年にわたる研究の歴史

図33 A大学の長年にわたる研究の歴史

図34 A大学の長年にわたる研究の歴史

図35 A大学の長年にわたる研究の歴史

図36 A大学の長年にわたる研究の歴史

図37 A大学の長年にわたる研究の歴史

図38 A大学の長年にわたる研究の歴史

図39 A大学の長年にわたる研究の歴史

図40 A大学の長年にわたる研究の歴史

図41 A大学の長年にわたる研究の歴史

図42 A大学の長年にわたる研究の歴史

図43 A大学の長年にわたる研究の歴史

図44 A大学の長年にわたる研究の歴史

図45 A大学の長年にわたる研究の歴史

図46 A大学の長年にわたる研究の歴史

図47 A大学の長年にわたる研究の歴史

図48 A大学の長年にわたる研究の歴史

図49 A大学の長年にわたる研究の歴史

図50 A大学の長年にわたる研究の歴史

図51 A大学の長年にわたる研究の歴史

図52 A大学の長年にわたる研究の歴史

図53 A大学の長年にわたる研究の歴史

図54 A大学の長年にわたる研究の歴史

図55 A大学の長年にわたる研究の歴史

図56 A大学の長年にわたる研究の歴史

図57 A大学の長年にわたる研究の歴史

図58 A大学の長年にわたる研究の歴史

図59 A大学の長年にわたる研究の歴史

図60 A大学の長年にわたる研究の歴史

図61 A大学の長年にわたる研究の歴史

図62 A大学の長年にわたる研究の歴史

図63 A大学の長年にわたる研究の歴史

図64 A大学の長年にわたる研究の歴史

図65 A大学の長年にわたる研究の歴史

図66 A大学の長年にわたる研究の歴史

図67 A大学の長年にわたる研究の歴史

図68 A大学の長年にわたる研究の歴史

図69 A大学の長年にわたる研究の歴史

図70 A大学の長年にわたる研究の歴史

図71 A大学の長年にわたる研究の歴史

図72 A大学の長年にわたる研究の歴史

図73 A大学の長年にわたる研究の歴史

図74 A大学の長年にわたる研究の歴史

図75 A大学の長年にわたる研究の歴史

図76 A大学の長年にわたる研究の歴史

図77 A大学の長年にわたる研究の歴史

図78 A大学の長年にわたる研究の歴史

図79 A大学の長年にわたる研究の歴史

図80 A大学の長年にわたる研究の歴史

図81 A大学の長年にわたる研究の歴史

図82 A大学の長年にわたる研究の歴史

図83 A大学の長年にわたる研究の歴史

図84 A大学の長年にわたる研究の歴史

図85 A大学の長年にわたる研究の歴史

図86 A大学の長年にわたる研究の歴史

図87 A大学の長年にわたる研究の歴史

図88 A大学の長年にわたる研究の歴史

図89 A大学の長年にわたる研究の歴史

図90 A大学の長年にわたる研究の歴史

図91 A大学の長年にわたる研究の歴史

図92 A大学の長年にわたる研究の歴史

図93 A大学の長年にわたる研究の歴史

図94 A大学の長年にわたる研究の歴史

図95 A大学の長年にわたる研究の歴史

図96 A大学の長年にわたる研究の歴史

図97 A大学の長年にわたる研究の歴史

図98 A大学の長年にわたる研究の歴史

図99 A大学の長年にわたる研究の歴史

図100 A大学の長年にわたる研究の歴史

基盤A・B・C(一般)-9
(金額単位:千円)

設備品費の明細			消耗品費の明細	
購入にあたっては、基盤研究(A・B・C)(一般)研究計画書作成・記入事項を参照してください。			購入にあたっては、基盤研究(A・B・C)(一般)研究計画書作成・記入事項を参照してください。	
年度	品名・仕様 (数量×単価) (設置機関)	金額	品名	金額
18	情報共有化基盤用HDDサーバ・1式×台 1,000 (京都大学)	2,000	ノーウェアソフトウェア	200
	Server V240, CPU ULTRASPARC IIII, 1.5GHz, メモリ 2GB, HDD 200GB RAID構成		ノーウェア消耗品	100
	世界に広がるイヌウーラム菌とネットワークの研究に関する資料	500	PCソフトウェア	100
	アフロアジア地域の政治制度, 110点×冊 冊 (京都大学)	500	アジア政治刊行物(2タイトル/年分)	200
	アフロアジア地域の政治制度, 110点×冊 冊 (京都大学)	500	アジア政治刊行物(1タイトル/年分)	100
	計	3,000	計	1,000
19	データ編集用デスクトップPC・1台×台 300 (京都大学)	300	PCソフトウェア	500
	DELL Dimension 9100, CPU Intel Pentium D707 4th/910, 3GHz, メモリ 1GB		ノーウェア消耗品	100
	データ編集用ノートPC・1台×台 300 (京都大学)	300	PC消耗品	100
	Panasonic Let's note V4, Intel Pentium M プロセッサ 1.6GHz, メモリ 512MB		アジア政治刊行物(2タイトル/年分)	200
	アフロアジア地域の「政治」110点×冊 冊 (京都大学)	500	アジア政治刊行物(1タイトル/年分)	100
	計	1,000	計	1,000
20			PCソフトウェア	400
			ノーウェア消耗品	100
			アジア政治刊行物(2タイトル/年分)	200
			アジア政治刊行物(1タイトル/年分)	100
			消耗品図書	200
	計	0	計	1,000
基盤研究(A・B・C) 研究機関名		京都大学	研究代表者氏名	
			田中耕司	

経費の積算を丁寧に

- 一 備品については、購入予定の機器について、型式・価格など十分に確認
- 一 国内・海外旅費は、年次計画に沿った積算になっているか確認する
- 一 会議費、謝金なども同様

計画が杜撰かどうか、過大な経費要求になっていないかは、計画の本文と経費一覧を対比すれば、審査員はだいたい予測がつく。

若手研究者支援制度に関する説明会



ひと目見て、見やすく整理してあるという印象を与えること

「準備状況など」研究業績」の Before

基礎C(一般)-5
研究計画を実施するに当たっての準備状況及び研究成果を社会・国民に発信する方法
本欄は、次の点について、準備状況を整理して記載すること。
① 本研究を実施するために使用する研究施設・設備・研究資料等、現在の研究環境の状況
② 研究分担者がいる場合には、その者との連絡調整の状況など、研究手前に向けての状況
③ 本研究の研究成果を社会・国民に発信する方法等

① 本研究を実施するために使用する研究施設・設備・研究資料等、現在の研究環境の状況
代表者・分担者の所属機関では、高速な情報処理システムがなく今後導入が検討されている。

② 研究分担者がいる場合には、その者との連絡調整の状況など、研究手前に向けての状況
研究分担者の金沢勢とは、これまで学会活動で知りあっており、常に連絡をとれる状況にあり、共同研究できる状況にある。

③ 本研究の研究成果を社会・国民に発信する方法等
研究成果は、学会で発表し論文投稿をおこなう。

こんな状態で研究できるのかな...

研究分担者の研究遂行能力が全く判断できない!

専門家に発信するのは当たり前... 国民にはどう伝えるのかを聞けるのに...

研究業績
本欄は、研究代表者及び研究分担者が最近5年間に発表した論文、書籍、産業界雑誌、招待講演のうち、本研究に關する重要なものを決定し、現在から順に発表年表を過去3年まで記入。発表年(月)別に編年表を作成(国語・英語可)とし、通し番号を付けて記入して下さい。なお、学術論文以外の著書や論文を掲載する場合は、掲載誌を明記する必要があります。 また、必要に応じて、連携研究者の研究業績についても記入することができます。記入する場合には、二重線を引いて区別(二重線は移動可)、研究者は、現在から順に発表年表を過去3年まで記入して下さい(発表年表に掲載する必要はありません)。

行間が詰まりすぎて、どれがタイトル、論文誌名なのかわかりにくい...

この論文は査読されてる?

201X 以降	吉田山 太郎	*Taro Yoshidayama, Tsutomu Kanazawa, Hanko F. Demachi, URA network for effective research promotion in Japan, URA Journal, 2, 12-23, 201X. *Taro Yoshidayama, John Doe Kyoto, URA meets Rock-and-Roll: Enhancing URA system for Kyoto International Council of University Research Administrators, 15, 120-147, 201X. *Taro Yoshidayama, Effective communication method for faculty members and students in universities, IKIRU Journal, Vol. 5, No. 5, pp. 12-20, 201X.
201Y	吉田山 太郎	*吉田山太郎, 百方勉, 卓越した知の創造を支援する職員向けワークショップの開発と実践, 研究推進論文誌, 34, 2, 161-176, 201Y. *吉田山太郎, 山田花子, 京都大学における先駆的なURAシステム, 第1回URA協会大会, 報告欄, 東京, 201Y. *吉田山太郎, 研究室内の学生-教員間コミュニケーションに関するケーススタディ教材の開発と実践, いきいき研究学産学第27回全国大会講演論文集, 頁. 537-538, 水田町, 東京, 201Y年9月.

提案内容と関係ない気が...

基礎A・B・C(一般)-11

【最近5年間に学術誌等に発表した論文、書籍のうち本研究に關する重要なものを決定し、現在から順に発表年表を過去3年まで記入。発表年(月)別に編年表を作成(国語・英語可)とし、通し番号を付けて記入して下さい。なお、学術論文以外の著書や論文を掲載する場合は、掲載誌を明記する必要があります。また、必要に応じて、連携研究者の研究業績についても記入することができます。記入する場合には、二重線を引いて区別(二重線は移動可)、研究者は、現在から順に発表年表を過去3年まで記入して下さい(発表年表に掲載する必要はありません)。

発表年	研究代表者・分担者氏名	発表論文名・著書名
	田中 研司	「地域学としての東洋学」の発展と研究の展望(岩波講座 東洋学第4巻)【地域学としての東洋学(上)】ロマンズ, pp. 116-180. Tunaka, Yokoyama Satoshi, and Khams Phalakhone, "Land Allocation Program and Stabilization of Sustainable Agriculture in the Northern Mountain Region of Laos: Macroscopic Policy Support for Socio-Economic Development in the Lao PDR, Phase 2: Main Report, Vol. 2, CPI, Lao PDR, and IICA, pp. 318-335. Song Xiaofeng, Kono Yasuyuki, and Shrivayama Mamoru, "Environmental Combodis: An Open Source GIS Approach to Web Mapping," International Journal of Geoinformatics, Special Issue, 1(1): 63-70. Shrivayama Mamoru, Atsushi Kajiyama, Venkatesh Rajagwan, and Kono Yasuyuki, "Mapping Historical Maritime Exchanges between Vietnam, Thailand and Japan," International Journal of Geoinformatics, Special Issue, 1(1): 139-143. 「経緯の跡とその前」北タイカンセン往復 田中研司・松田宗一 編【ミケ人 人類学の軌跡】世界思想社 (近刊予定) 「Towards Multi-Literarity in Southeast Asian Studies: Perspectives from Japan」, Cynthia Chou (ed), Reconceptualizing Southeast Asian Studies (近刊予定) 「東南アジアにおける図書館コンソーシアム動向」『情報の科学と技術』2008年3月号: 114-119.
	速水 洋子	「十輝からみたアフリカ」水野一暉(編)『アフリカ自然学』古今書院, pp. 35-46 "Change in Population and Land Use Intensities in Several Villages of the For Northern Region of Namibia." African Study Monographs, Supplementary Issue 30, 77-88.
	北村 隆	「タラウ研究の最新情報」思想研究の立場から 赤塚隆幸・東長達・津川(編)『イスラームの神秘主義と聖者信仰』(イスラーム地域研究叢書第5巻) 東京大学出版会, pp. 95-114.
	荒木 茂	『インドの青年(1)』(2) 宮本みち子 (編) 『比較文化研究: 若者とジェンダー』 知恵大学教育振興会, pp. 31-116.
	東長 達	『方法としての地域研究』 特集にあたって 『地域研究』7(1): 5-12. 小久丸 義一・梅村 洋・山本智彦・倉谷知可・津川 隆 (編) 『中央ユーラシアを知らず』 平凡社。
	津川 隆	『中央アジア地域研究学』 青年科ノートの構築とその学術的-教育的利用に関する研究 (平成15-16年度科学研究費補助金・基礎研究B(2) 研究成果報告書) 国立国会図書館。
	楳谷 知可	『ロシアの国境-モスクワの見たロシア領トキスタン』『ロシア史研究』No. 76, pp. 15-27. 『英独の復活ー現代ウズベキスタン・ナショナリズムのなかのディムル』『若井野子・白井隆 (編) 『イスラーム地域の国家とナショナリズム』(イスラーム地域研究叢書第8巻) 東京大学出版会, pp. 185-212.
	西内 勇津彦	『III 総合データベースにおける著者名典拠ファイル形成過程』『大学図書館研究』73: 1-14.
	原 正一郎	Hara Shouichiro, Masatoshi Ishikawa, et al. (11). "Application of GIS to Historic Documents: Creation of Geo-Temporal Database on Historical Earthquakes in Ancient and Medieval Ages in Japan." Proceedings of Pacific Neighborhood Consortium 2009 (Ferdinandian)
	員志 俊彦	『『東洋新批評』構想の源流と振興』『あどがき』 員志俊彦・栗野聖子・小風秀隆 (編) 『『東アジア』の時代性』 漢学社, pp. 1-9, 91-117; 232-244

要求されている情報をもれなく記載する。

「準備状況など」研究業績」の After

基礎C(一般)-6
研究計画を実施するに当たっての準備状況及び研究成果を社会・国民に発信する方法
本欄は、次の点について、準備状況を整理して記載すること。
① 本研究を実施するために使用する研究施設・設備・研究資料等、現在の研究環境の状況
② 研究分担者がいる場合には、その者との連絡調整の状況など、研究手前に向けての状況
③ 本研究の研究成果を社会・国民に発信する方法等

① 本研究を実施するために使用する研究施設・設備・研究資料等、現在の研究環境の状況
代表者・分担者の所属機関では、高速な情報処理システムがなく今後導入が検討されている。

② 研究分担者がいる場合には、その者との連絡調整の状況など、研究手前に向けての状況
研究分担者の金沢勢とは、これまで学会活動で知りあっており、常に連絡をとれる状況にあり、共同研究できる状況にある。

③ 本研究の研究成果を社会・国民に発信する方法等
研究成果は、ウェブサイトからの発信をおこなう。また、イベントとして、国際URAシンポジウムを開催する。さらに京都大学の国民との科学技術の対話の場である「アロミックラボ」にも出張して広く社会・国民に発信していく予定である。

研究業績
本欄は、研究代表者及び研究分担者が最近5年間に発表した論文、書籍、産業界雑誌、招待講演のうち、本研究に關する重要なものを決定し、現在から順に発表年表を過去3年まで記入。発表年(月)別に編年表を作成(国語・英語可)とし、通し番号を付けて記入して下さい。なお、学術論文以外の著書や論文を掲載する場合は、掲載誌を明記する必要があります。
また、必要に応じて、連携研究者の研究業績についても記入することができます。記入する場合には、二重線を引いて区別(二重線は移動可)、研究者は、現在から順に発表年表を過去3年まで記入して下さい(発表年表に掲載する必要はありません)。

発表論文名・著書名	著者名
「例えば歴史学の場合、論文名、掲載誌名、巻数の頁、最初と最後の頁、発表年(月)別」	等

論文間に余白を入れて、個々の業績を明確に区別できるようにしました

タイトルと論文誌名が区別がつくよう体裁を変えました。

① 201X
以降 吉田山 太郎
1. Taro Yoshidayama, Tsutomu Kanazawa, Hanko F. Demachi, "URA network for effective research promotion in Japan", URA Journal, 3, 12-23, 201X (査読有り)
2. Taro Yoshidayama, John Doe Kyoto, "URA meets Rock-and-Roll: Enhancing URA system for Kyoto International Council of University Research Administrators, 15, 120-147, 201X (査読有り) (IF 2.5) (best paper award).

② 201Y
吉田山 太郎
(論文)
3. 吉田山太郎, 百方勉, 卓越した知の創造を支援する職員向けワークショップの開発と実践, 『研究推進論文誌』, 34, 2, 161-176, 201Y (査読有り)
(招待講演)
4. 吉田山太郎, 山田花子, 『京都大学における先駆的なURAシステム』, 第1回URA協会大会, 報告欄, 東京, 201Y.

指示に従い、研究代表者に二重下線を引くなどの処理を行いました



もう一度、繰り返します

何度も読み直すことが大切
時間をおいて、もう一度読み直す

そして、最後に

提出前に、「教科書」の第5章
「研究計画調書作成チェックリスト」
で必ずチェックしてください

H24年度科研費申請書の教科書アンケート

***必須**

あなたは本書のコンテンツに対してどの程度満足されましたか？「全体」に対する満足度と「各章」に対する満足度を教えてください。

	満足できない	どちらかとい うと満足でき ない	どちらかとい うと満足	満足
全体	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
研究計画調書執筆の心得	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
科研費審査の評定基準	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
研究計画調書作成のポイント	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
研究計画調書の修正: Before-After	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
研究計画調書チェックリスト	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

本教科書は来年バージョンUPして再発行する予定です。あなたはどんな新コンテンツを期待しますか？

- 学内の科研費獲得状況アータ
- 「研究目的」「研究計画」「準備状況」「研究業績」以外の項目に関するコンテンツ
- 「新学術領域」「挑戦的萌芽研究」など特殊なカテゴリに特化したコンテンツ
- Before-Afterのサンプル数の増加（分野の多様化）
- 実際採択された研究計画調書のサンプル
- 科研費以外の大型ファンド（JST CREST/さきがけ等）の申請書執筆Tips
- 特になし
- その他:

学術研究支援室では、URAと研究者が双方向のコミュニケーションを通じて、よりよい研究支援体制を整えようとしています。そのためにも、今回配布した「教科書」をよりよいものに改良していきます

<http://goo.gl/LWfMv>から、アンケートに回答いただくとともに、さまざまなご意見をURA室 (Email: contact@kura.kyoto-u.ac.jp) へお寄せください

一つだけご注意ください:

「教科書」の転載、複製、譲渡をしないでください！

研究推進支援体制の整備－URA室としての取り組み

学術研究支援室（KURA）では、外部資金獲得とプロジェクト運営支援に向けた様々な活動を展開しています。

活動内容 学術研究支援室は、ビジョンとミッションに沿って以下の2つの主要な活動を実施します。

1 研究プロジェクトにおける企画・運営・広報の支援

研究プロジェクトの企画、運営、研究成果の社会還元を支援します。研究プロジェクトの実施に係るニーズを把握し、研究者の負担軽減に努めます。

URA室では、
 「大型プロジェクト以外も支援して欲しい!」
 「学内で共同研究ができる研究者を募集してほしい!」
 など、他のターゲット、場面も多くなります。



研究活動に専念できるよう、URAは **Pre-Award 支援** します!

Post-Award 支援



- 事例例
- 1: キョウガアツヒアエ基礎大学との共同研究ニーズ調査・発信、インドネシアとの学術協会の研究プロジェクトチームの形成、ミャンマーとの共同研究-教育プロジェクトチームの形成
 - 2: 戦略的創造研究推進事業の情報の収集・提供(平成24年度)
 - 3: 戦略的創造研究推進事業(CREST / さきがけ/ 社会共創研究開発/ ALCA)、大学の従属機関力強化事業、元来戦略プロジェクト、科学研究費助成金 基礎研究(B)、博士課程教育リーディングプログラム、建研研究中核国際連携事業、テニュアトラック普及・定着事業(平成24年度)

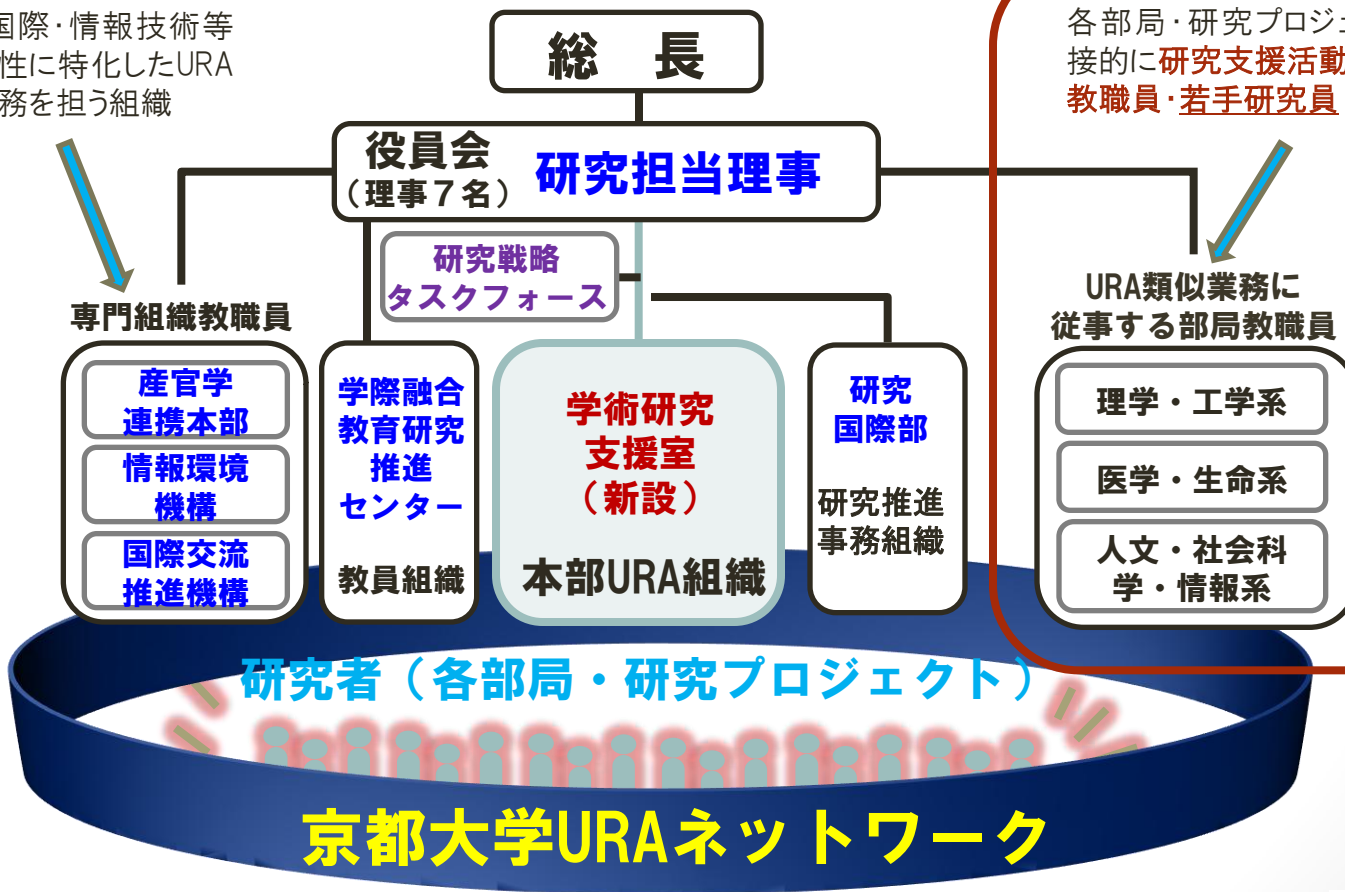
- 4: 元来戦略プロジェクト、グローバルCOEプログラム
- 5: [京都大学アカデミックダイ]の開催、[国医との科学-技術対話]の活動支援、元来戦略プロジェクト
- 6: グローバルCOEプログラム



学術研究支援室と学内関連組織との連携

研究担当理事が統括する**本部URA組織**(「**学術研究支援室**」)を新設。産官学連携本部における知的財産などに特化した専門組織等の教職員、学内の各部局・研究プロジェクトで直接的に研究支援活動を担っている技術職員や教務職員、研究推進支援員、URA職類似業務に従事する教職員・若手研究員を結ぶ「**京都大学URAネットワーク**」を構築する。

知財・国際・情報技術等の専門性に特化したURA関連業務を担う組織



各部局・研究プロジェクトで直接的に**研究支援活動を担う**教職員・**若手研究員**

URA類似業務に従事する部局教職員

- 理学・工学系
- 医学・生命系
- 人文・社会科学・情報系

Establishment of Kyoto University URA Network

Katsura Campus

2 URAs &
1 URA for CK Project

Yoshida Main Campus

Hokubu URA Office

3 URAs

KURA Office
8 URAs

**Yoshida URA Office
for Humanities and Social Sciences**

4 URAs

Nansei-Chiku URA Office

4 URAs

**Yoshida-Minami
URA Office**

3 URAs

**URA Office for
Medicine (Hospital)**

2 URAs &
1 URA for CK Project

3 URAs
Uji Campus



URA室では、若手研究者の研究支援とともに、将来、若手研究者のキャリアパスとなるような職種(URA)とその制度が大学に定着していくことを目的とした事業を推進します。

- 研究支援活動に関心のある若手研究者とURA室を結ぶネットワークをつくり、「京都大学URAネットワーク」の一環として若手研究者がURA制度定着に向けて関心を寄せてもらえる活動を展開します。
- 詳しくは、ウェブサイトをご覧ください
URL <http://www.kura.kyoto-u.ac.jp/>



学術研究支援室のURA

ご清聴ありがとうございました

